

第3回 基礎ぐい工事問題に関する対策委員会
議事要旨

日時：平成27年11月25日（水）18:30～20:30

場所：合同庁舎3号館4階幹部会議室

■ 深尾委員長より挨拶

■ 議事

- 旭化成建材のデータ流用が判明した建築物等の安全性の確認・検証を中心に議論。
- 目視等による傾斜等の確認状況や横浜市のマンションの構造安全性の検証結果などについて報告しつつ、具体的な基礎ぐいの支持層到達の確認方法について議論。
- 旭化成建材等からの報告についても説明しつつ、今後の再発防止策の検討に向けて発生要因等について意見交換。

■ 各委員からの発言

〔安全性の確認・検証〕

- 資料2-1「ぐいの到達を確認する方法（案）」について、「A」と「B」はこれによい。「C」について工事写真で確認できるのであれば問題ないとする。「D」については、基礎ぐいの工法に応じて調査方法を工夫して対応することになるだろう。事例①～④を付けたうえで、本案のとおりでよい。
- 今回示した「ぐいの到達を確認する方法（案）」について委員会として了承。現時点ではこの方法を進めることでよい。

- 安全性が確認された物件が増えてきたことは、国民の不安の解消にもつながるものと期待する。
- 確認方法が示されたことで安全性確認作業の加速も期待する。
- 安全性の確認状況からも、委員会としてデータ流用と安全性の問題を分けた検討が妥当であると再認識。

- 基礎ぐいについては、根固めも重要であることから、セメントミルクに関するデータ流用についても対応策を更に検討すべき。

- 横浜市のマンションについては、建築基準法の構造耐力の適合性について引き続き当事者に対して安全性検証を求めていくとされていることから、委員会としてその推移を注視していく。

〔再発防止策関係〕

- 業界による自主的な改善の取組に期待する。
- 業界を挙げて対策を考えなければ、本当の意味での信頼回復につながらない。
- 日本建設業連合会においてもプロジェクトチームを立ち上げ、年内を目途に業界団体としての対応策をとりまとめる方向で動いていることから、それも踏まえて本委員会の再発防止策を検討していきたい。
- 業界内で失敗事例の共有を図る仕組みを構築すべき。

- 「流用」というのは不正な行為であり、それに対して罪の意識を持たなければならない。流用を行った者だけではなく、経営者に対してもコンプライアンスの徹底や意識改革を推進することが重要である。

- 電流計データについて、復元性のないデータだけに頼るのは問題である。技術が進歩してもヒューマンエラーなどは発生するものである。他の根拠・代替手段でカバーすることができる仕組みを検討することが必要だろう。
- データをとれなかったときのルール作りが必要である。
- データがとれなかったことに加えて、本来確認すべき立場にある元請等の姿勢も重要な論点である。現場における施工を日々確認し、適正な施工管理を行うことが求められる。

- 技術的な観点から見ると、施工時に不具合が発生した場合の対処方法を明確にしていれば問題発生を防ぐことはできるのではないかと。
- 基礎ぐい工事の重要な局面では立ち会いが求められるべきであり、現行の建設業法も監理技術者・主任技術者の目による確認を想定しているはずである。そもそも現行法が求めている対応が出来ているのかどうか把握して、対策を考えることが必要。

- 重層下請構造は責任関係が曖昧になりやすいおそれがある。
- 建設業の構造的な問題と基礎ぐいの施工の品質確保の問題は、分けて議論しておきたい。基礎ぐいの施工の現場では、品質確保のための仕組みが活かされていないのではないかと。また、構造的には、元請建設企業から下請の専門工事業者に至るまでの責任分担を明確にし、実効性のある品質確保の責任体制を構築していくべき。

- 対策を考えていくに当たっては、横浜のマンション事案の発生要因を丁寧に検討することが必要。当時の事実関係を把握しつつ、契約や法律上の観点から責任関係をしっかり整理すべき。
- 横浜のマンション事案以外の基礎ぐい工事の事例も分析したほうがよい。

- 杭の施工管理について、以前は現場の立ち会いを中心とする施工のプロセスの管理だったが、現在は書類・データが中心となっている。現場の状況等によっては立ち会いを重視して、その場で施工を修正できるようにする体制も考えるべき。
- 横浜のマンション事案について、設計のプロセスや施工計画等も確認して、課題を分析したい。

[今後について]

- 次回は、引き続き、データ流用のあった物件に関する安全性の確認状況を把握しつつ、基礎ぐい工事の実態を踏まえながらデータ流用等の発生要因の整理を進めて、具体的な再発防止策の検討に入りたい。
- 年内に中間報告という目標を踏まえて、計画的に検討を進めていく。